

城西ロータリークラブ様のご支援のもと、フランス・アラスに派遣していただいております松岡彩葉です。12月は留學生活で一番楽しみにしていたクリスマス、年明けなど沢山のイベントがありとても充実していた月でした。

## フランスで迎えたクリスマスと年末年始。

ヨーロッパで迎える本場クリスマスは、私が留學生活の中で最も楽しみにしていた季節でした。12月になると街の至る所にクリスマスツリーやイルミネーションが飾られ、昼も夜も街全体に温かく雰囲気包まれていました。その雰囲気は日本ではなかなか味わうことのできないもので、外を歩くだけでも心が明るくなり、毎日がとても特別に感じられました。日本では、クリスマスは友人や恋人と過ごす行事という印象が強いですが、フランスでは宗教的な背景もあり、クリスマスは**家族**と過ごす大切な時間とされています。一方で、年明けは友人同士で集まりパーティーをすることが多く、行事ごとに人との関わり方がはっきり分かれている点がとても印象的でした。

私もホストファミリーのクリスマスに参加させていただき、家族全員が集まってプレゼント交換をしたり、フォアグラなどの特別なクリスマスメニューを囲んだりしました。家族の一員として温かく迎えていただき、今までに経験したことのないほど心に残るクリスマスとなりました。

沢山のプレゼントも頂きました。

フランスで生活して感じたことの一つに、**家族と過ごす時間や食事の時間を非常に大切にしている**という点があります。特に食事は、フランスの人々にとって欠かせない大切な時間であり、クリスマスのような行事では、前菜からメイン、チーズ、デザートまで、長い時間をかけて会話を楽しみながら食事をします。その中で互いの近況を語り合い、絆を深めていく姿がとても印象に残りました。このような経験を通して、私はフランスの文化の素晴らしさを実感すると同時に、自分が育ってきた日本の文化についても改めて考えるようになりました。フランスでは家族や人との時間を大切にする文化があり、日本には季節の行事を重んじ、相手を思いやる心配りが根付いています。異なる文化に触れたからこそ、日本とフランスそれぞれの良さに気づくことができたと感じています。フランスで迎えたクリスマスと年末年始は、私にとって忘れられない経験となり、人とのつながりや家族の在り方について深く考えるきっかけとなりました。

